【日の出入り・月の出入り表】

2027年 1月

提供：国立天文台

日	日の出 時：分	南中時 時:分:秒	高度 度	日の入り 時：分	月の出 時：分	月の入り 時：分	月齢 12:00	備　　考
1	7:24	12:24:25	33.8	17:25	1:24	12:29	23.1	元日
2	7:25	12:24:53	33.9	17:25	2:24	13:00	24.1	水星が外合※4
3	7:25	12:25:21	34.0	17:26	3:25	13:35	25.1	地球が近日点通過
4	7:25	12:25:48	34.1	17:27	4:24	14:15	26.1	金星が西方最大離角※5
5	7:25	12:26:16	34.2	17:28	5:22	15:01	27.1	小寒※1
6	7:25	12:26:42	34.3	17:29	6:15	15:52	28.1	
7	7:25	12:27:09	34.4	17:29	7:04	16:47	29.1	
8	7:25	12:27:35	34.6	17:30	7:46	17:44	0.3	新月
9	7:25	12:28:00	34.7	17:31	8:23	18:43	1.3	
10	7:25	12:28:25	34.8	17:32	8:55	19:41	2.3	
11	7:25	12:28:49	35.0	17:33	9:24	20:38	3.3	成人の日
12	7:25	12:29:13	35.2	17:34	9:51	21:35	4.3	火星が留※6
13	7:25	12:29:36	35.3	17:35	10:16	22:32	5.3	
14	7:25	12:29:58	35.5	17:35	10:42	23:30	6.3	
15	7:25	12:30:20	35.7	17:36	11:09	--:--	7.3	
16	7:24	12:30:41	35.8	17:37	11:40	0:32	8.3	上弦
17	7:24	12:31:02	36.0	17:38	12:16	1:37	9.3	土用の入り※2
18	7:24	12:31:21	36.2	17:39	12:59	2:45	10.3	
19	7:24	12:31:40	36.4	17:40	13:52	3:56	11.3	
20	7:23	12:31:58	36.7	17:41	14:56	5:06	12.3	大寒※3
21	7:23	12:32:16	36.9	17:42	16:09	6:09	13.3	
22	7:22	12:32:32	37.1	17:43	17:26	7:04	14.3	満月
23	7:22	12:32:48	37.3	17:44	18:42	7:49	15.3	
24	7:22	12:33:03	37.6	17:45	19:54	8:28	16.3	
25	7:21	12:33:18	37.8	17:46	21:03	9:01	17.3	
26	7:21	12:33:31	38.1	17:47	22:09	9:31	18.3	
27	7:20	12:33:44	38.3	17:48	23:12	10:00	19.3	
28	7:20	12:33:56	38.6	17:49	--:--	10:29	20.3	
29	7:19	12:34:07	38.8	17:50	0:15	11:01	21.3	下弦
30	7:18	12:34:18	39.1	17:51	1:16	11:35	22.3	
31	7:18	12:34:27	39.4	17:52	2:17	12:13	23.3	

＊　佐世保市（東経129.7156°，北緯33.1800°）を基準に計算しています。出入り時刻は地平線での時刻とお考えください。

＊　月の出、月の入りが起こらない日があります。月齢は12時で計算しています。

※1　二十四節気の一つ　意味：寒の入りで、寒気が増してくる。

※2　土用：四立(立春・立夏・立秋・立冬)のおよそ18日前をいう。最終日が四立の前の日・節分になる。

※3　二十四節気の一つ　意味：冷気が極まって、最も寒さがつのる。

※4　天体が地球からみて太陽の方向にあるのを「合」、反対方向にあるのを「衝」といいます。外惑星の場合は、「合」のとき地球から最も遠くなり「衝」の時最も近くなります。（最も大きく見えます）　内惑星（水星と金星）の場合は、太陽よりも遠い位置にある「外合」と、太陽より近い位置にある「内合」があります。

※5　最大離角は、地球から見た太陽と内惑星（水星、金星）との角距離が最大となる瞬間です。地球から見て内惑星が太陽の東側にあるときを東方最大離角(とうほうさいだいりかく)、太陽の西側にあるときを西方最大離角(せいほうさいだいりかく)といいます。東方最大離角のころは夕方西の空、西方最大離角のころは明け方東の空にあり、観望の好機となります。

※6　惑星は、通常天球上の恒星の中を西から東へとゆっくり移動（順行）していくように見えますが、時に東から西へ移動（逆行）することがあります。その移動の方向が変わる瞬間を「留」と言います。その後、再び西から東へ移動するようになる瞬間にも「留」となります。